

第2期東海市総合戦略の概要

1. 総合戦略を策定する目的

- 国は、急速な少子高齢化に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけることなどを目的として、平成26年（2014年）11月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定しました。
- 本市では、これまで展開してきた施策を再評価するとともに、新たな視点も取り入れ、平成27年（2015年）に東海市総合戦略を策定し、本市の立地特性を生かした「まち」づくり、子育て支援や健康支援、人材育成による「ひと」づくり、そして、にぎわいの創出・拡大による「しごと」づくりを進めてきました。
- こうしたなか、国の「まち・ひと・しごと創生推進基本方針2019」や第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定されたことを受け、東海市総合戦略に基づくまちづくりの進捗状況や本市を取り巻く社会環境の変化、国の方針を基に新たに追加する視点等を踏まえて、令和2年度（2020年度）から令和6年度（2024年）までの5年間を計画期間とする第2期東海市総合戦略を策定しました。

2. 東海市を取り巻く社会動向と総合戦略の位置づけ

- 本市は、令和9年（2027年）に予定されている東京・名古屋間を40分で結ぶリニア中央新幹線の開通により「東京まで1時間のまち」となり、利便性のさらなる向上が予測されています。
- 平成27年（2015年）に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の理念（「だれ一人取り残さない」社会の実現）を踏まえながら、だれもが居場所と役割を持ち活躍できる地域社会の実現のため、市民団体や大学、民間企業等の多様なまちづくりの担い手と一層の連携を図ることが求められています。
- こうしたなか、総合戦略は、中長期的な将来を見据え、我が国における喫緊の課題である人口減少や地域経済の縮小といった課題へ的確に対応し、地方創生を推進していくための羅針盤となるもので、地域経営の視点のもと戦略的にまちづくりを展開していくため、第6次総合計画後期計画や各種の個別計画との整合性を図りながら、分野横断的に重点的に取り組む「戦略的なビジョン」として、今後の取り組みを整理しています。

3. 人口ビジョン

- 人口ビジョンは、まち・ひと・しごと創生の実現に向け、効果的な施策を企画立案する上で重要な資料として位置づけられるもので、本市の人口ビジョンは、国の長期ビジョンと整合性を図り、期間を令和42年（2060年）とします。

3-1. 本市の人口の現状分析

総人口	全国から急激な人口の流入を生んだ昭和35年（1960年）～昭和40年（1965年）の人口増加以降も着実に増加を続け、平成17年（2005年）には10万人を超えました。平成27年（2015年）には11万人を突破し、現在も増加が続いています。
人口構成	女性に比べて男性の人口が多いことが特徴であり、年齢層では40～44歳と65～69歳の年齢層にピークがあります。 年少人口は平成12年（2000年）までは減少傾向となっていました。平成17年（2005年）からは増加傾向に転じました。生産年齢人口は近年、減少傾向にあるのに対し、高齢者人口は一貫して増加しており、平成17年（2005年）から10年間で約1.4倍となっています。
人口動態	本市の安定的な人口増加は、社会増減と比較して自然増の与える影響が大きい傾向にあります。近年は死亡数の増加により、自然増の影響は小さくなってきています。
社会増減	男性では、20歳代の転入が顕著であり、逆に30歳代～40歳代の転出が多い傾向となっています。女性では、20歳代～30歳代の転入が多い傾向となっています。
自然増減	合計特殊出生率は、平成9年（1997年）まで下降していましたが、その後上昇に転じており、本市の合計特殊出生率は、愛知県や全国の数値より高い値で推移しています。
未婚率	全国及び近隣自治体と比べた際の男女間の違いが顕著であることが本市の特性です。近年の動向としては、女性の未婚率は各世代において横ばい又は微増となっていますが、男性は、30歳代以降が微減傾向で推移しています。
就業人口	男性は「製造業」、「建設業」、「卸売業、小売業」が多く、女性は「卸売業、小売業」、「医療、福祉」の従事者が多い状況となっています。

3-2. 目指すべき将来の方向

- 本市においては、人口が増加し続けており、若い世代の結婚・出産の希望をかなえることにより自然増を今後も確保するとともに、若い世代が多く転入する状況を今後も継続させ、本市に住み続けられるよう転出抑制策を図ることで、人口減少への対応が可能であると期待できます。
- 地方創生は、日本全体の人口減少に歯止めをかけ、それぞれの地域に活力を取り戻していくための息の長い政策であることから、「継続を力にする」という姿勢で、次のステップに向けて歩みを確かなものとしていく必要があります。【自然増の確保】、【社会増の確保】、【社会減の抑制】に向けて、より一層の充実・強化を図りながら、国、県、関係機関及び企業等と連携し、主に以下の視点から引き続き積極的に効果的な施策に取り組んでいきます。

①自然増の確保

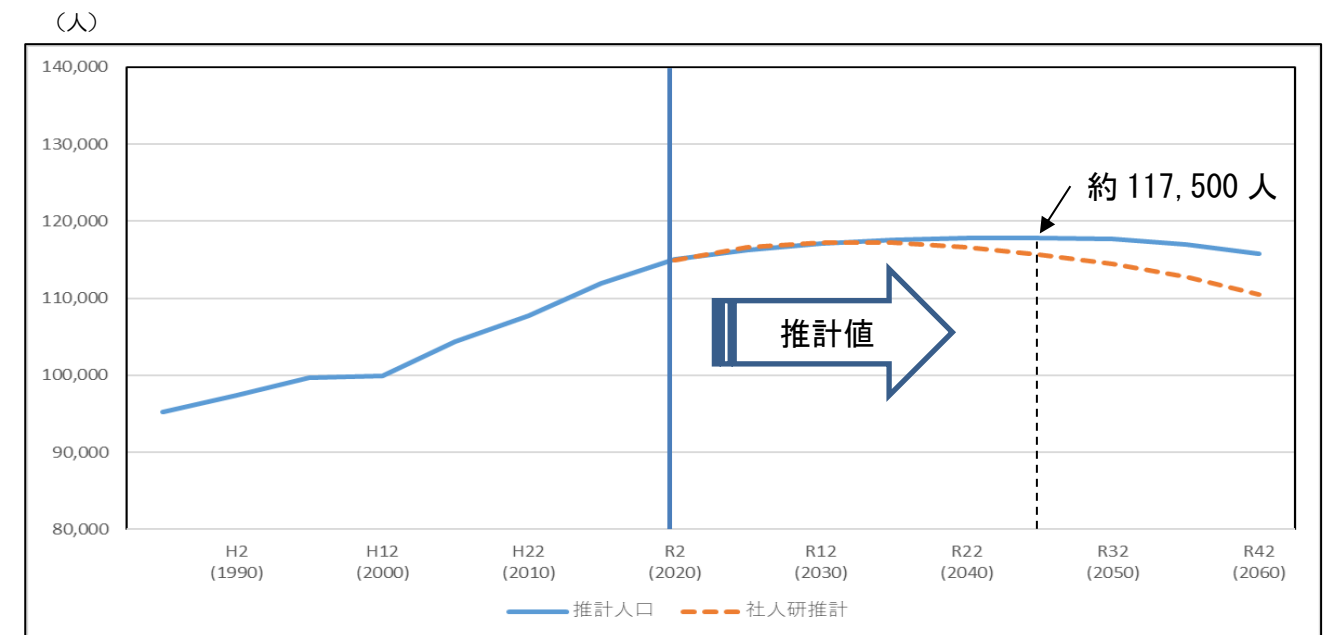
若い世代が、結婚でき、安心して妊娠・出産・子育てできる希望を実現するとともに、女性と男性がともに仕事と子育てを両立できる環境の整備を進めます。

②社会増の確保・③社会減の抑制

まちのさらなる活性化、女性、高齢者、障害者、外国人などだれもが役割と居場所を持ち安心して暮らせることができる地域社会の形成、新たな雇用の創出、職場・地域等で女性が能力を発揮できる環境整備等を目指すことで、都市の魅力向上を図り、人口の増加及び定着を図ります。

3-3. 人口の将来展望





- 近年の本市の人口動態を踏まえ、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計に準拠して将来人口を推計すると、令和42年（2060年）には約11万人に減少することが見込まれます。
- しかし、目指すべき将来の方向に沿った今後の施策の効果により、令和27年（2045年）頃まで微増傾向を維持し、令和42年（2060年）において現在と同じ水準の人口を確保します。



推計条件	基準人口	2019年4月1日時点の住民基本台帳
	出生率	合計特殊出生率が現状の1.75から5年間ごとに0.05ずつ上昇し、2045年以降は2.00で一定
	生残率	社人研の仮定値に準拠
	純移動率	2005年から2015年までの移動率が2030年まで継続し、その後、2045年にかけて0.5倍まで定率で縮小し、2045年以降は縮小した値で一定

4. 基本目標

- まちづくりの進捗状況や本市を取り巻く社会環境の変化、国の方針を基に新たに追加する視点等を踏まえて、本市が総合戦略に位置づけ、重点的に取り組む項目を4つの基本目標にまとめました。

<p>(1) リニアインパクトを見据えた地域活性化・にぎわい創出</p> 	<p>リニア中央新幹線の開通を見据え、まちのさらなる活性化を進めるとともに、次世代の成長分野をはじめ、魅力ある産業を創出・育成する</p>						
<p style="text-align: center;">指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> 魅力ある商店や企業が多いと感じている人の割合 1日当たりの鉄道駅乗降客数 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値 (H30)</th> <th>目標値 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>42.9%</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>54,077 人/日</td> <td>54,500 人/日</td> </tr> </tbody> </table>	基準値 (H30)	目標値 (R6)	42.9%	45%	54,077 人/日	54,500 人/日
基準値 (H30)	目標値 (R6)						
42.9%	45%						
54,077 人/日	54,500 人/日						
<p>(2) 人づくり (人材育成)</p> 	<p>夢や希望を育む環境の整備による将来を担う若い世代を中心とした人材の育成と、地域社会の活性化に向けた人材を確保する</p>						
<p style="text-align: center;">指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> 夢や目標を持っている児童生徒の割合 地域活動・市民活動を身近に感じている人の割合 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値 (H30)</th> <th>目標値 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>76.2%</td> <td>83%</td> </tr> <tr> <td>51.1%</td> <td>53%</td> </tr> </tbody> </table>	基準値 (H30)	目標値 (R6)	76.2%	83%	51.1%	53%
基準値 (H30)	目標値 (R6)						
76.2%	83%						
51.1%	53%						
<p>(3) 子育て支援・女性の活躍支援</p> 	<p>若い世代の働き方・結婚・子育ての希望を実現する</p>						
<p style="text-align: center;">指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> 合計特殊出生率 子育てがしやすいまちであると感じている人の割合 (20歳代～40歳代) 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値 (H30)</th> <th>目標値 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.75</td> <td>1.86</td> </tr> <tr> <td>78.5%</td> <td>83%</td> </tr> </tbody> </table>	基準値 (H30)	目標値 (R6)	1.75	1.86	78.5%	83%
基準値 (H30)	目標値 (R6)						
1.75	1.86						
78.5%	83%						
<p>(4) 健康づくり・生きがいづくり</p> 	<p>自分の健康状態を知り、自ら健康づくりを実践する人を増やすとともに、地域や人との関わりあいを通じて生きがいがあり健康なまちを実現し、健康寿命日本一にする</p>						
<p style="text-align: center;">指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康寿命 (男性) 健康寿命 (女性) 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値 (H30)</th> <th>目標値 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>79.90 歳</td> <td>81 歳</td> </tr> <tr> <td>83.64 歳</td> <td>85 歳</td> </tr> </tbody> </table>	基準値 (H30)	目標値 (R6)	79.90 歳	81 歳	83.64 歳	85 歳
基準値 (H30)	目標値 (R6)						
79.90 歳	81 歳						
83.64 歳	85 歳						

5. 具体的な施策

